



アイススケート教室～まずは事前指導から！

11月15日（土）、体育館で全校一斉に、スケート教室に向けて事前指導を行いました。講師は、日本スケート連盟スピード常任委員の高橋 一さんにお越しいただき、ご指導して頂きました。



スケートの歴史

〔スポーツ辞典ライブラリ「笹川スポーツ財団」HPより〕

■ スケートの起源

石器時代にまで遡ります。

最初は屋外スポーツだったんですね～

ヨーロッパの各地で冬季に氷結した運河や川の上を獣骨や毛皮で作ったつくった滑走部の付いた履物で滑走したことが始まりといわれます。

だから「滑る」という漢字に「骨」が使われているんですね。なるほど～。

当初は移動手段として広まりましたが、1250年前後にオランダで鉄製のブレードが開発されたとされ、オランダやイギリスを中心にレジャースポーツとして楽しめるようになりました。

その後、より早く移動することを追求するスピードスケートと、貴族社会を中心により優雅に滑走するフィギュアスケートに分化していきました。

日本スケートのはじまりには諸説あり、宣教師や教師として来日したアメリカ人の指導による説が一般的です。スケート靴が簡単に手に入らなかった当時は竹草履やそれを改良した「下駄スケート」が滑走用具として用いられ、日本スケートの原型となりました。



諏訪湖から始まった「下駄スケート」

■ ブーツ（スケート靴）

選手は氷上を滑走するための金属製の刃である「ブレード」が付いた革製、あるいは一部プラスチックのブーツ（スケート靴）を履いて競技に臨みます。

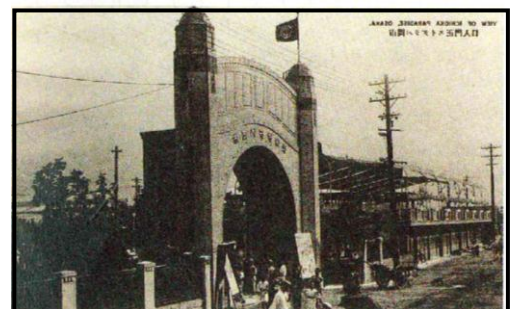
スピードスケートやアイスホッケーのブレードと大きく異なる特徴は、つま先にトゥピックと呼ばれるギザギザが付いており、ジャンプやスピンを行うのに欠かせない部分です。

実は身近だった!? アイススケートと港区…「市岡パラダイス」

〔ウィキペディアより〕

市岡パラダイス（右図）は、かつて大阪市港区夕凧にあった大娯楽施設である。1925年（大正14年）にオープン。

約1万2千坪の広い敷地の中に東洋一の高さだった約30mの飛行塔など園内には、ロサンゼルスミリオンダラーシアターを参考に設計された大劇場（桂座）、野外劇場、大浴場（千人風呂）、活動写真館、明光館、文化座、魔宮殿、遊園地、動物園があった。



そして、「北極館」という日本初の屋内スケートリンクがありました。